



軽費 / 特養 / 高齢者在宅サービスセンター / 高齢者専用賃貸住宅 / ケアハウス / グループホーム / 小規模多機能

No. 303号

2012(平成24年)5月

〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 TEL 042-527-0031(代) FAX. 527-2646
発行人：橋本正明 編集：広報委員会
ホームページ：http://www.shisei.or.jp/ Eメール：shisei-home@shisei.or.jp

Shisei Senior Service Center

「至誠ホーム ミンナ」開設3周年を迎えて!!

至誠ホームミンナ ブロック長

旭 博之

平成21年4月に開設した「至誠ホームミンナ」はこの春で3周年を迎えました。
例えば「本邦初」の地域密着型複合施設
+α（高齢者住宅と児童グループホーム）
の3年は、過ぎてみれば早いものです。

結局「国分寺地域相談センターなみき」という名称になった相談センターは「社会資源砂漠」とも評される市の北東エリアを担当しています。相談件数は毎年増え続け23年度は約3500件と開設年の倍に相当する件数に達しました。毎月ラウンジで開催される「ぶらっと並木」には多いときには地域から50名にらんとする参加者を迎えています。

このつながりから、思いがけず実現したドイツ人の音楽家夫妻によるヴィオラとピアノのミニコンサートでは、地域住民の皆さんと一階から三階までのミンナ入居者とそのご家族、小規模多機能への通いの皆さんなどここに連なる多様な人々が垣根なく会し、至近距離で奏でられるヴィオラの音色に心洗われる豊かな空間を満喫しました。当初、サービスそのものの知名度の低さ

も手伝って、利用登録者数の伸び悩みに苦しんだ「小規模多機能ホーム」の運営も、現在では堂々と軌道に乗ってきました。なによりも、他の介護保険サービスの組み合わせでは「どうに境界」と思われる利用者もその限界点が先に延びている実感があるのは、このサービスの特徴が発揮できている証拠です。



ドイツ人音楽家夫妻によるロビーコンサート

さらに3年を経過する中の利用動向として、最初多機能ホームの「通い」の利用から徐々に「泊まり」へと移行し、宿泊になったところでグループホームへの入居へと移行、さらに身体的な介護ニーズの増大に伴ってグループホームから特養へ移行するといった例も何例かみられました。

引っ越しをすることなく同じ建物で二丁目に合ったサービスを利用し生活を続けられるといった芸当は、複合施設ならではの底力・相乗効果といったところです。

中には、高齢者住宅「楽」に住まいながらケアセンターもとまちに通い、虚弱化と病状から医療機関へ入院、住宅を退去し、最終的にミンナ特養に入居されるという方も出現しました。至誠ホームミンナブロックというよりも、もはやミニ至誠ホームといった感じですが。

児童グループホーム「並木の家」の子供たちとの付き合いもいい感じです。まるで自分のお家と家族のようななじみ方は同じ地面に暮らす者同士ならではです。すでに夏祭りや長寿の会ではなくてはならないレギュラー陣を獲得しています。

これからも、「明るく、健康で豊かな高齢期の生活づくり」という至誠ホーム理念をここ国分寺の地でも実現させるべくミンナのみんなで力を合わせて歩いていく所存です。

「シルバーピア生活援助員」のお仕事 受託について

至誠ホーム柏地域福祉サービスセンター

副センター長 大友 正樹

今年度、至誠ホームでは新たに一つの事業が加わりました。それは、立川市からの委託を受けて行う、立川市内8ヶ所総戸数177戸のシルバーピアの入居者を支える生活援助員（Life Support Adviser、略称「L S A」）の業務です。

シルバーピアとは、高齢者（65歳以上）のひとり暮らしや高齢世帯のうち、住宅にお困りの方が、自立して安全かつ快適な生活を送ることができるよう配慮して



生活援助員連絡会にて

建設された集合住宅です。入居に当たっては年齢要件のほか、日常生活動作が自立していることや所得についてなど一定の要件を満たしている必要があります。入居者の募集や資格審査等については立川市が行います。

立川市では、各シルバーピアに生活援助員を配置することを原則としており、市内の社会福祉法人に業務を委託しています。生活援助員は入居者の安否の確認、緊急時の対応、一時的な生活援助、生活相談、関係機関との連絡、建物の管理などをを行います。しかし入居時には身のまわりのことはご自分で出来ていても、実際には入居後に加齢等により心身の機能が低下し、日常生活においてさまざまな手助けを必要とする場合もあります。至誠ホームでは今年度から地域における福祉活動の一環として今回のお仕事をお受けいたしました。

生活援助員の業務時間は平日午前9時から午後4時までとなっていますが、入居者の方々の信頼関係を大切にしながら、

ら、体調急変時の救急車要請等、必要なサービスに繋がっていくようなことも担います。幸いなことに至誠ホームでは平成2年より錦町6丁目の「立川市シルバーピアせいせい」（現在、「サービス付高齢者向け住宅せせらぎ」に移行）の運営を行って来た経験も持っています。

今年度委託を受けたのは①都営上砂町一丁目アパート（大山団地）内のシルバーピア（6ヶ所）、②「シルバーピア玉川上水」、③「シルバーピアけやき荘」の計8ヶ所です。4月から至誠ホームの職員としてこのような業務を担当する生

副センター長に就任して



大友 正樹

この度、柏地域福祉サービスセンターの副センター長を拝命いたしました。当センターは平成5年から事業を開始し、今年度は開設20年目の年に当たります。

地域に根ざし、目的とする事業活動を続けて来ることができたのは、ひとえに利用者の皆様や地域の皆様、ボランティアの方々のおかげです。

生活援助員を8ヶ所のシルバーピアに配置し入居者の皆様の生活を支えて参ります。また柏町の柏地域福祉サービスセンターがこの事業を担当し、必要に応じ幸町の至誠キートンホームがバックアップするという体制をとります。

今後、地域包括支援センターや介護保険の諸サービスを提供する事業者様とも連携をして居住者の方に安心した生活が守られるように努力をしてまいります。入居者や地域の皆様、自治会の役員や関係諸機関の皆様、どうぞ今後のご指導・ご協力よろしくお願い申し上げます。

と改めて感謝の念に堪えません。

私は至誠ホームでは錦地区で特養の職員として6年間、在宅部門のケアマネジャーとして5年間仕事をさせていただきました。柏センターでの勤務は今年で2年目となります。

今年度、センターにはこれまでの通所介護（アイホーム）事業、居宅介護支援（アマネジャー）事業の他に、シルバーピアの生活援助員事業も加わり、新たな役目が増えました。

これからも柏センターが地域の皆様が必要とされ、可愛がって頂けるセンターであるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



フィンランドとの交換研修から
**至誠ホームにおける
 研修報告** 期間3月9日～29日
 報告者 ヘルシンキ高齢者財団
 エリサ・モイサンダー（OT）
 リッカ・カムネン（PT）

この度、至誠ホームを訪問し、その機能を理解する機会が得られたことを感謝いたします。

特別養護老人ホームからデイサービスまでの幅広い高齢者サービスについて学ぶことができたことは、大変貴重な経験となりました。高齢者の仕事は真摯に、正直に心から誠実に行われるべきであるという設立時からの基本理念「誠の心」の働きは、とても良く受け継がれていると感じました。またスタッフが専門的でありながらも、ごく自然に温かい心を持って働いていることに感銘を受けました。

そして多くのボランティアとよくマネージメントされたボランティアコーディネーションのことは、とても参考になりました。これは私たちの組織の中でも取り組んでいなくてはならないことです。

ユニットの部屋は自然の明かりと空間で満たされていて、そこで楽しく過ごせるように工夫されています。個室にいても入居者は広い窓で楽しむことができ、バルコニーへ簡単に出ることが出来ます。

スケジュールの面では、至誠ホームのように大きな組織を知るには3週間という期間はやや短いと感じました。もし個々の専門分野にもう少し焦点を合わせた研修ができれば、研修がより専門的に進むかもしれません。

ユニットと施設ごとの研修の数日間ではその機能の全体像を知ることができ、質問も出来るようになりました。

全体的にプログラムは念入りに調整されていました。週末のプログラムも良く企画され、私たちの希望も取り入れられていました。至誠ホームのスタッフに案内していただいていた私たちは本当に恵まれていたと感じます。更にスタッフは調整や案内だけでなく、私たちの生活が困らないように配慮してくれました。こうした気遣いは素晴らしいかったです。皆様に特別の感謝を申し上げます。

それと私たちは3月16日のサービス向上大会に参加する機会を得ました。内容は良く企画されて実施されていました。中でも私たちは職員と入居者間のコミュニケーションと雰囲気改善のプロジェクトに心をうたれました。入居者間の関係をサポートすることの重要性について新たな気づきがありました。

貴重なお話しを聴けて、その場で通訳してくださった橋本ライヤさんに感謝します。また、沢山の案内やお知らせが活用されていました。エレベーター内、壁、朝の体操

の後のアナウンス。最新の情報は朝礼で職員間に共有されています。このように職員同士が定期的に会い情報がいつも新鮮でタイムリーだということは重要なことだと感じました。

他にもユニット内で写真がいかにかフリーエタイプに使われているかを見ることは興味深いものでした。入居者とスタッフが一緒に写っている写真は、家族のような感覚を演出しています。また、スタッフの子供のころと現在の写真も飾られていました。あるユニットでは子供のようにして入居者の家族と一緒にスタッフの写真を見ました。

こうしたことは調和を醸し出すとても良い方法だと思いました。同じところに所属しているというスタッフの気持ちを深めるのに役立ちます。

最後に、至誠ホームの将来がすべてうまくいきますように。皆様のもてなしと分かち合いに感謝致します。

（訳・編集 企画調整）



右 リッカ・カムネンさんと
 エリサ・モイサンダーさん

『悪徳商法や詐欺の被害にあわないために』



立川市にしき福祉相談センター 吉住聡子

以前から振り込め詐欺や悪徳商法については大きく報道され、注意が喚起されていますが、手口も巧妙になり、被害は思うように減っていません。3月19日にスオミケアハウスで、立川市消費生活センターの川崎直美相談員に講師をお願いし、最近多く起こっている悪徳商法や詐欺の内容や対処法についての講習会を行いました。

「私は被害にあわない」と思っている人もいますが、「敵」もプロです。上手く人の弱みに付け込んだり、自尊心をくすぐったり、あの手この手で隙をついてきます。残念ながら、今回の参加者は多くはなかったのですが、具体的な例を挙げてわかりやすく説明があり、少ない人数で行なった分、体験談や意見の交換も活発にでき、参加者は、被害の実態や対処方法がよく理解できたのではないかと思います。

川崎相談員が強調していたのは、困ったり悩んだ時には「ひとりで悩まずまず相談」です。消費生活センター等相談窓口を活用してください。

第17回至誠ホームサービス向上大会

サービス向上委員長 宮本知行

去る3月16日(金)、立川市女性総合センターアームにて、第17回至誠ホームサービス向上大会が開催されました。この大会は至誠ホームの職員が、サービスの質の向上を目指し、1年間かけて取り組んできた成果を発表し、至誠ホームの高齢者ケアを広く知って頂くために毎年行われているものです。当日は、至誠ホーム内外の130名を超える方々が来場され、大変盛況な大会となりました。

今回発表のサークルは、全18サークルが参加した3つの地区大会での優秀サークルである「キートン特養4階」「ケアセンターもとまち」「至誠特養4階」の3サークルでした。その中で、記録の質と効率の検討に取り組んだ「ケアセンターもとまち」が、学識経験者のお二人と地域のボランティアさん、ホーム長の厳正なる審査により、見事、最優秀の栄冠を勝ち取りました。
また、至誠ホームの「天寿を全うするケア研究会」の遺族アンケートに関する研究発表も行い、福祉施設のあり方に大変示唆的な発表となりました。
当日ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

「嗚呼...記録...今日も私を悩ませる」
〜記録の質と効率は両立できるのか〜
ミナブロック 至誠ケアセンターもとまち
もとまち在宅支援 宮内美季

ケアワーク、相談援助、事務等々、全ての業種で必須となる「記録」。専門職としてしっかりと書きたい、けれど時間が確保できない。そのジレンマに挑むべく、「質」や「効率」とは何か、その両方を確保するにはどうしたらいいのか、そもそも両者は両立し得るものなのか検証してみようと、今回は支援経過記録に絞り、「質」を追求するチームと「効率」を追求するチームに分かれて取組みを開始しました。すると両チームとも、記録ルールの設定や内容の精査等、「記録の標準化」の議論の中で、質を追い求めようとすると効率の議論になり、効率を追い求めようとすると質の議論になっていくプロセスを体験していったのです。
「質と効率は異なるものではない」...どの支援においても質と効率の両立が目指されている中で、記録のそれが検証されにくいことは否めません。しかし、よりよいサービスを提供していくための両

輪となるのは、次の支援への道筋がつけられる「質」の確保と、時間的なロスを最小限にする「効率」の確保であり、その両立こそが全体の力の底上げにつながっていくと考えれば、記録も例外ではありません。
検証はまだ途上にあります。今後も皆で考えていきたいと思えます。

心と心を通わせて
〜私らしいホームでの生活作り〜
私が主人公 エピソード2
錦ブロック 特養4階介護 八木優喜

今年度特養4階では、ホームでの生活がより良くなることを目指し、多くの方とコミュニケーションをはかり関係性が構築できるよう、茶話会を実施したことを発表しました。
茶話会の場を「何気ない会話から生まれる心と心のふれあいを通して、お互いの気持ち、存在を理解する新しい絆の私たちの場」と考え、昨年度の取り組みを基盤とし実施しました。しかし、最初の茶話会ではお互いの気持ち・存在を理解する場ではなく、職員が中心となり利用者の意見を引き出す場となってしまう。また、「職員 対 利用者」という茶話会ではなく自然な会話の生まれる「利用者 対 利用者」の茶話会を実現させる



ためにはどうすべきか職員同士で検討を重ね、「聞き役」と「サポート役」に徹すること、また利用者同士の距離

「天寿を全うするケア」
〜個別ケアから見えたかかわり〜
キートンブロック
至誠キートンホーム4階介護 阿保仁美

平成23年度、キートンホーム4階では

3名の方が病院で、7名の方を居室にてお看取りさせて頂きました。今回、3名の方が事例として取り上げ、後悔や不安が残るケース（病院で死去）・その方らしい最期をお手伝いすることでできたケース・状況が持ち直し天寿ケアから外れたケースを報告させて頂きました。

中でも、反響が大きかったものが本人の意思をしつかり汲み取ることで最期の場面までその方らしいお見送りをすることができたケース。情報共有の強化や日々のアセスメント・最後まで上向き可能性を信じてケアに当たるといったことから危機的状況から脱する事ができたケースの二つでした。

そして、これらの天寿ケアを通し、天寿ケアは特別なケアではなく、日々のケアの延長であり、これまで実践してきた個別ケアが天寿ケアに活かされるということ。また、至誠ホームの強みでもあるボランティアや地域の方の協力、入居者間での支え合いがあることで最期までよりその方らしい生活の継続をお手伝いできることも分かりました。

他にも多くの課題が挙げられましたが、課題解決と共に今後も“その方らしい天寿を全うするケア”を追求していきたいと思っています。

ボランティア交流会をおえて

ボランティア
コーディネーター
寺澤 育代

3月23日、センター4階でボランティア交流会が行われました。明星大学のボランティアセンターの方や東京賢治の学校の方に、フィンランドからの研修生のリッカさんとエリサさんに加え、総勢76名でした。

初めにホーム長から「地域における絆は日本の財産。支える者も支えられる者も共に、というのが絆。ホームを活動の場としてくださっている皆様の日ごろの働きに心から感謝したい。」という挨拶がありました。



交流会風景

次に「特養におけるボランティアの力」というタイトルで至誠特別養護老人ホームの吉上恵子園長の講演がありました。

「特養では利用者の重度化でボランティア活動のメニューや活動場面が多様化している。それらは利用者の生活を支える活動と生活に潤いを与える活動に分けられる。そのバランスが大切。」というお話でした。

続いては至誠デイケアセンターの松田光子副センター長の「デイホームにおけるボランティアの力」という講演でした。

「デイホームでのボランティア活動は生きがい支援が主。地域の教室との違いは、利用者の心身の状況に沿った活動であること。利用者には、『来てよかった』と思える時間を過ごしていただきたい。」という内容でした。

ボランティアさんからは活動をしていてうれしかったこと、工夫をしていること、困ったことなど活発な意見が出ました。「他のボランティアさんの活動のきっかけや活動内容を聴き、とても刺激になった。」ボランティア活動を行える幸せを感じる。「また職員からは「今日いただいた要望や意見を少しずつでも反映していきたい。」との意見が出ました。

大勢の方にご出席いただきこのような機会を持たてたことを心より感謝しています。どうもありがとうございました。



平成24年3月21日
(水)、第39回利用者
相談委員会が開催さ
れました。

今年度2回目の利用者相談委員会では、10月以降に寄せられたお手紙について(ご意見1件、ご要望2件、苦情1件)話し合うとともに、今年度のまとめが行なわれました。

また後半には前回検討を継続することになったデイサービスでの昼食の汁物について、その後の経過の報告がありました。

〈デイサービス昼食時の汁物について〉

キートスブロックのデイサービスでは、前回の利用者相談委員会後に調整を行い、柏センターでは毎日、キートスデイサービスでは一般のみ毎日汁物の提供を3月から始めました。また認知型も一般の様子を見て、4月から提供することになっています。

調布若葉ケアセンターは開設当初から汁物を付けており、現在提供のないものとまちデイサービスでも、今後足並みを揃える意味でも再度検討することになりました。

〈平成24年度の第三者委員〉

平成24年度も委員長山田美和子さん、委員として皆口万里子さん、山下清超さんに引き続きお願いいたします。

◆利用者相談委員会に苦情や要望を伝えたいときは

- ①お手紙コーナーポストに投函する
各事業所に設置されています。
②苦情受付専用電話を利用する
担当者がお話を伺い、苦情対応責任者や利用者相談委員会に報告・相談します。

- ③利用者相談委員に直接電話する
各所に掲示してあるポスターに委員の電話番号が記載されています。
④市の苦情相談窓口にご相談する
立川市福祉保健部高齢福祉課在宅支援係等042-5231-2111

- ⑤東京都社会福祉協議会 福祉サービス運営適正化委員会事務局に相談する
03-5283-7020(専用電話)

疑問に思う事やお困りのことがありますしたら、遠慮なく身近なスタッフにお声かけください。至誠ホームでは皆様からのご意見をお待ちしております。

至誠ホームのサービスに関するご意見・ご要望・苦情の窓口

〒190-0022
立川市錦町6-28-15
至誠ホーム「利用者相談委員会」
専用電話042(527)0374
FAX042(527)2646

ボランティア受入/福祉学習協力状況

Table with 3 columns: 種類, 期間, 平成23年度 2月~3月, 平成23年度 累計. Rows include 一般ボラ, インターンシップ, ボランティア体験, etc.

ボランティア活動状況 活動内容別

Table with 3 columns: 活動内容, 期間, 平成23年度 2月~3月, 平成23年度 累計. Rows include 生活支援, 健康づくり, 生き甲斐支援, etc.

ボランティア活動状況地区別

Table with 3 columns: 地区別, 平成23年度 2月~3月, 平成23年度 累計. Rows include 錦地区, 幸・柏地区, 国分寺地区, etc.

〈〉はV体験で内数

至誠ホーム利用者状況 (平成24年2月1日~24年3月31日) ():実人数

Large table showing user status by business content (事業内容) and category (事業部). Columns include 事業内容, 2月, 3月, 累計. Rows include 自立事業, 介護保険, 事業委託, etc.

*入居施設定員 至誠特別養護老人ホーム150名、至誠ホームキートス70名、至誠ホームミナ小規模特養29名、至誠和光ホーム50名
至誠ホームスオミ・ケアハウス50名、至誠ホームスオミ・グループホーム9名、至誠ホームミナグループホーム18名
*サービス付高齢者向け住宅せせらぎ15戸 高齢者専用賃貸住宅「菜」7戸

ホーム日誌

平成24年2月1日~平成24年3月31日
CH・ケアハウス、GH・グループホーム
自主研・職員自主研修会

5月 3土 3
29水 28火 25土 2321木火 20月 19日
18161514 10 9 8 7 4
土木水火金 木 水 火 土 金
おもちや図書館(キートス)/錦町芸文化祭出演
さいわい包括介護教室(キートス砂川学習館)
サービス向上地区大会(3回目)
コーヒータイトム(ミナ)/ホーム喫茶ボランティア交流会
ホームヘルパー「再チャレンジ講座」(キートス)
運営推進会議(スオミGH)/他施設見学及び研修「たぎざわ苑」(キートス)
運営懇談会(スオミCH)/自主研「褥瘡予防」委員会(キートス)/「特養」ゆうらくUL実施研修報告(キートス)
法人・錦六会合同防災訓練/至誠ホーム家族会幹事会(錦)/福祉相談日
平成24年度新人職員研修開始



7木 ビアタイム(ミンナ)
 8木 コーヒータイム(ミンナ)
 9金 せせらぎ懇談会/法人事務局長
 会
 12月 法務局講演会「成年後見制度」
 13火 井原先生相談日/自主研「認
 知症事例研究(キートス)
 14水 和光会役員会/コンサート(ミ
 ナ)/自主研「きたざわ苑研
 修報告」事故予防委員会(キ
 トス)

16金 サービス向上本大会(アィムセ
 ンター)
 17土 キートス集会/家族介護者交流
 会(ミンナ)
 18日 おもちゃ図書館(キートス)
 18日 福祉相談日/給食委員会(ミン
 ナ)/利用者相談委員会/自主
 研「最期までの日々」看取り
 介護を考える(キートス)
 22木 春の彼岸供養祭/コーヒータ
 イム(ミンナ)
 23金 コミ栄養相談/ボランティア交
 流会/キートス居酒屋
 24土 法人理事会・法人辞令交付式
 27火 全体集会(錦)/日本の四季とオ
 ペラを楽しむコンサート(錦DS)
 28水 感謝の会(和光)/和光集会/運
 営推進会議(ミンナ)
 29木 運営懇談会(スオミCH)/誓いの
 式
 30金 介護予防教室(もともち)

感謝録

温かい御支援・御協力下さいました方々に
 厚く御礼申し上げます。
 平成24年2月1日〜平成24年3月31日(敬称略)

① 金員の部

新田ヨリ 森松道子 鈴木栄治郎
 下東玲子 濱崎隼彦
 至誠ホーム後援会会長梅田尚裕
 橋本富美子

7件(延268件)

② 物品の部

南保智子 三井物産(株) 阿川聰子
 (社福) 東京都社会福祉協議会東京善
 意銀行高橋典子 小野瑛子
 アビリティーズケアネット(株)代表取締
 役会長・社長伊東弘泰
 フィンランド大使館広報部
 (株)川原経営総合センター「ふくろう」
 立川東部読売新聞 菅原陽子

11件(延109件)

③ ボランティア

(1) 一般ボランティア(錦地区)

【立川市】 菊正会 錦六茶友会
 すだちの会 立川レクリエーション協会
 談話室アイアイ なでしこ もみじ会
 みどりの会 立正佼成会壮年部ボラン
 ティアチーム 朗読サークルこえ

相田茂子 麻生ミエ 阿部志げ子
 安藤道子 五十嵐和子 石部トヨ子
 伊藤信子 岩谷淳子 及川悦子
 大澤清一 大井田フサエ 大古春子
 奥 一郎 大館純子 小川 隆
 尾園栄子 奥 陽子 小栗カツ子
 加藤衣子 加藤典子 川崎秀子
 神田ミヨ 貴志 力 岸 幸子
 北島君子 木村千世子 木村玲子
 久保田友子 蔵田郁枝 黒井文子
 黒羽里枝 近藤庄司 坂本美智子
 佐々木慶吉 佐藤美智子 山岡千賀子
 篠原園子 篠村綾子 下東玲子
 杉田幸子 鈴木恵子 鈴木敬司
 鈴木幸子 染谷球子 高久征子
 鷹左右清道 鷹左右元代 高田和彦
 高橋恵美子 滝下敏子 竹下富子
 田中千尋 田中由紀子 田原衣子
 田村和子 遠山百世 戸田フミ子
 富山喜久栄 中谷 明 永森初子
 永山幸子 根岸 司 野村祥子
 橋本ライヤ 坂場雛子 浜中広見
 古谷文子 前中美佐子 前中光雄
 三浦英敏 三田孝一 満田満子
 宮内雅子 向井みどり 百瀬千枝

(他市) 聖書の会

東京都立富士森高等学校将棋部
 中藤ボランティア会
 阿川聰子 安部めぐみ 磯崎静子
 市川りか子 片江康裕 杉本華来子
 高石ふみ子 田中英子 丹治信江
 中丸幸子 波田野翔太 林 乙平
 松本祥枝 宮脇由起 横山久子
 吉川 朗 渡邊綾子

延1332名

一般ボランティア(コミホーム)

【立川市】 阿部志げ子 磯野俊雄
 出浦美代子 大井田フサエ 加藤 清
 金子元衛 金三津ゆき子 永山幸子
 宮下皆子

延92名

一般ボランティア(キートス)

【立川市】 朗読サークル「こえ」
 おもちゃ図書館 柏町隣人会 音楽隊
 青木豊子 青木融子 荒井和子
 青野節子 生澤清子 稲垣明子
 石川悦子 池田三郎 岩田綾子
 潤井和子 及川宏克 大橋富士子
 大庭文子 大家千枝子 大西次子
 織原良江 大森千代子 加賀晴子
 笠間久子 金森 耐 萱生佳子

延92名

一般ボランティア(柏センター)

市村敏雄 岩田綾子 大山紀子

延88名

菊池正勝 北瀬明子 絹谷光江
 木村浩通 紅林由美子 草場久子
 黒田真知子 久住菊依 河野美和子
 神山喜久江 斎藤 博 坂口洋子
 櫻井百合子 澤田照代 三中西博介
 三中西せい子 新林春子 鈴木洋子
 高橋 貞 高橋明子 高橋ひさ
 高橋好弘 高橋百合子 高橋雪子
 高橋 睦 高橋百合 竹内信子
 田中清子 田中秀穂 田中美智子
 田中真知子 田邊シゲ子 田辺紀子
 辻 靖子 鶴巻清子 鳥居美都琉
 中嶋カヅ子 中沢京子 中野庸夫
 成田 綴 西山靖子 服部ちづ子
 濱田弘子 羽村ミサ子 羽鳥亜矢
 松原菜都子 平野信子 藤井美千代
 古澤清子 藤原まゆみ 別府ひろ子
 本間秋子 松田廣子 松本和美
 丸山淳子 溝口礼子 宮坂 栄
 宮島君代 持丸 治 持丸弘子
 元島美子 桃野幸子 山川和代
 山田佳子 山口弘子 渡会和子

延57名

一般ボランティア(もともち)

石橋幸子 神原巨(他5名)
 宮田美代子 木村幸子 和田博子
 池田幸子

延62名

(2) ボランティア体験(錦)

至誠保育園 延44名
 【キートス】 なし
 【柏センター】 なし
 【ミンナ】 なし
 【もともち】 なし

福祉学習協力

(1) 実習研修

◎社会福祉士 東京家政学院大学 栗原千穂(24日)/
 十文字学園女子大学 鶴島夏樹(10日)
 ◎ユニツトリーター研修
 楠浩・永田大康・野口英夫・猪村恵美
 ・福富麻里子・大場祐美(各3日)/奥
 田純・高本明希子・深澤幸子・中里幸
 夫・島一紀・井上利美・大串英樹・佐
 藤智子・栗原安美・椎名真弓・加藤絹
 代・小室未来(各5日)

(2) その他の実習

訪問介護員養成研修2級課程
 NPO法人ごとの会 4名(各1日)
 /地域福祉サービス協会 4名(各3

(日)／東京家政学院大学 4名(各1日)／立川市立看護専門学校 老年看護学実習 2名(各4日)
 (2) 体験学習 なし
 (3) インターシップ なし
 (4) 見学・視察
 クン・プロダクト近藤代表他3名、野中様、金

後援会コーナー

後援会費納入者ご芳名 (敬称略・順不同)

誠に有難うございました。厚くお礼申し上げます。
 平成24年2月1日～平成24年3月31日

下川 綴子 小保方 忠好 松村 文子
 宮入 文子 橋本 茂 高久 征子
 林 个 西村 シヅエ 青山 夏樹
 岩澤 純 勝木 敬子 高田 智恵子
 中村 奈保 荒川 陽一朗 榎 朝雅
 久保 田 敬一 鈴木 有子 倉本 宣
 林 整形 外科 院長 林 靖 邦 馬場 維 男
 三宅 奉子 井上 富士子 岡田 清
 橋本 正明 高倉 洋子 鈴木 栄 治 郎
 橋本 富 美 子 春山 順子 山下 記 代 子
 竹内 美 幸 坂本 博子 杉山 清 子
 伊山 陽子 宮崎 虎 雄 花田 千 代 子
 以上 35 名

後援会加入のお願い

皆様方の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。
 お申し込みは左記事務局へ
 至誠ホーム事務局
 電話 042-527-0031
 至誠キートンホーム事務局
 電話 042-538-2323

子様他1名、秋田県横手市特養花むつみ会工藤様、府中市立介護予防推進センター2名、練馬区社会福祉事業団8名
 (5) ご慰問・ご招待
 計18件 累計202名
 計0件 累計4件

ホームを支えてくださる 後援会に感謝

至誠ホーム長 橋本 正 明

昨年度、至誠ホーム創設60周年の記念事業として調布若葉ケアセンターを2012年1月に開設することが出来ました。至誠ホームが立川の日野橋の脇で老人ホームの仕事をはじめたのは昭和26年の5月のことです。当初職員は橋本良市夫妻と職員1名、入居のお年寄りは32名というまことに小さなホームでした。以来60年の時間の経過の中で、たくさんのお年寄りが至誠ホームをご利用になりました。そして資金的な支援として後援会の皆様、そしてボランティアの方々のおかげがあり現在に至りました。
 昨年度も後援会を通して350万円という多額の浄財を頂戴することが出来ました。本当に尊く有難い資金です。今後も皆様のお心にお応えできるようホーム一丸となって、誠心誠意高齢者福祉に取り組んでまいります。変わらぬ後援会の皆様のお支えに心からお礼を申し上げます。有難うございました。

地域包括支援センターコーナー

立川市北部中さいわい地域包括支援センター 042(538)2339
 立川市にしき福祉相談センター 042(527)0321
 国分寺地域包括支援センターもとまち 042(301)5001
 国分寺地域相談センターなみき 042(300)3702

2次予防事業のついでに何かできるか?

国分寺地域包括支援センターもとまち 川村 牧子

皆さんは、2次予防事業という言葉を目にしたことがあるでしょうか？年齢を重ねていくと、生活機能の低下や環境要因の変化に影響をうけやすくなります。

そこで、要支援・要介護状態に陥るおそれのある方々を早期に発見し、集中的に必要な応じた介護予防のためのプログラム(運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能の向上、閉じこもり予防・支援、認知症予防・支援、うつ予防・支援)を提供する事業を、2次予防事業といえます。

国分寺市では、介護保険認定で非該当の認定を受けた方々や郵送による基本チェックリスト配布・回収等といった方法で対象になる方々を把握、介護予防プログラム(運動器の機能向上・口腔機能向上および栄養改善)参加へのご案内を行なっています。プログラムお申し込み時には、必ず

地域包括支援センター介護予防事業担当者と面接を実施し、生活機能評価およびプログラムに期待することや長期的な目標について話し合い、計画を立てていきます。

プログラムに参加すること自体が目的ではなく、その後どうい生活をしていきたいか、どんなことができるようになったかといった点に着目してお話を伺うようにしています。

プログラムが終了した後、再度生活機能評価を行い参加後の健康状態や現在のとりくみ等をうかがう機会を設けています。

この取り組みは、立川市、調布市でも実施されています。それぞれの自治体HP等でご確認ください。

